

ショートコメント vol.52 (2016年5月20日)

テーマ：急低下する景気動向指数（先行指数）

～過去の景気後退局面に類似。今後の動きには要注意～

●気になる景気動向指数（先行指数）の低下

このところ、景気動向指数（内閣府）の「先行指数」の低下が目立っている（図表1）。先行指数とは、その名のとおりに、景気に先行して変動する指数である。今のところは、「一致指数」（景気の動きと一致して動く指標）に大きな低下がみられないこともあり、あまり警戒の声も聞かれないものの、これを軽視すべきではないとみられる。

●先行指数の系列ごとの動きに注目

というのも、先行指数の下がり方が問題なのである。先行指数は11系列の統計（図表2）で構成されているが、10系列以上が発表されている直近（2015年9月～2016年2月）の動きをみると、7系列以上が悪化となった月が3回ある。これは決して頻繁に起きることではない。

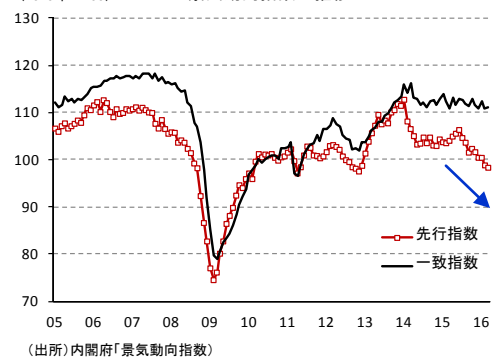
特定の系列が大幅に下がることで、指数全体が下がっているわけではなく、大半の系列が悪化を示しているのである。

●過去の景気後退局面との比較

過去にさかのぼってみると、過半数の系列が一定期間にわたって悪化となった時期は、リーマンショック前後、消費税増税後など、景気の悪化した局面と重なる（図表3）。すべてにそれが当てはまるわけではないものの、今後は本格的な景気後退局面入りに対する注意が必要といえよう（図表4）。

直近で発表された統計でも、街角景気には既に景気の後退感がみられるほか、先ごろ発表された2016年1-3月期のGDP成長率も、うるう年要因を除けば非常に弱い動きとなっている。一致指数が急に下がり始めることも、決して否定できない。

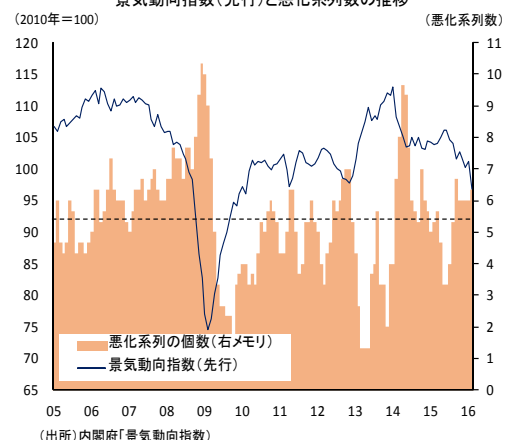
【図表1】
景気動向指数の推移
(2010年=100)



【図表2】
先行指数の各系列

- 最終需要財在庫率指数(逆サイクル)
- 鉱工業用生産財在庫率指数(逆サイクル)
- 新規求人数(除学卒)
- 実質機械受注(製造業)
- 新設住宅着工床面積
- 消費者態度指数
- 日経商品指数(42種)
- マネーストック(M2)(前年同月比)
- 東証株価指数
- 投資環境指数(製造業)
- 中小企業売上げ見通しDI

【図表3】
景気動向指数(先行)と悪化系列数の推移
(2010年=100)



(出所)内閣府「景気動向指数」
※悪化系列数は後方3カ月移動平均。図中の点線を超えると過半数が悪化していることを示す

本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。